

実践のまとめ（第1学年 国語科）

新発田市立紫雲寺中学校 教諭 島津 一美

1 研究テーマ

**身に付けてきた「読みの力」を働かせ、主体的に学習を進める生徒の育成
～他教科と連携した横断的な学習課題に取り組む活動を通して～**

2 研究テーマについて

(1) テーマ設定の意図

中学校の学習指導要領（平成29年告示）では、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成することを目標としており、国語で身に付けた力を社会生活の中で活用できることが求められている。生徒に対して学習に関するアンケートを実施したところ、約80%の生徒が「国語の学習が他教科や社会の中で役に立っている。」と回答した。ただ、国語で身に付けた資質・能力がどのような場面で、どのように活用できているのかを具体的に実感できている生徒は多くないと思われる。

2024年4月に実施したNRTの結果では、「書くこと」が全国比をやや下回っており、特に「目的に応じて工夫して書く」「情報を選び構成を考えて書く」ことに課題があることがわかった。生徒自身が「書くこと」に対してその「目的」や「必要性」を感じられないまま学習が進んだり、今までの学習や身に付けてきた力を適切に「活用」できなかったりしたことが原因の一つとして考えられる。特に苦手意識のある課題に対して、生徒自らが主体的に学習を進めていくためには、学ぶ目的（魅力的な学習課題）が必要であるが、これまでの授業では、その動機付けがうまくいかず、生徒が受け身で学習することが多かった。

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説では、「言語感覚の育成には、多様な場面や状況における学習の積み重ねや、継続的な読書などが必要であり、そのためには、国語科の学習を他教科等の学習や学校の教育活動全体と関連させていくカリキュラム・マネジメントの工夫も大切である。」と書かれている。そこで今回は理科と連携し、共通課題として「レポート作成」を行うことにした。レポートの構成は、説明的文章の応用である。説明的文章での学びが「書く」分野にも通じていること、そして、国語の学習が他教科でも活用できることを生徒に実感させることで、主体的に課題に取り組む生徒の姿の実現を目指したい。

(2) 研究テーマに迫るために

① タブレット型端末を使ったスタディ・ログの活用と蓄積

「習得・活用・探究」という学びのサイクルを回す際に、タブレット型端末の活用が有効である。今回の単元では、説明的文章の学習で身に付けた「読みの力」を「ロイロノート」の記録を見直すことで思い出し、それを活用してレポートを作成することで、自らの学びや、学びの系統性を実感させる。また、学習後には、タブレット型端末に、単元を通した振り返り、生徒が取り組んだ学習課題やワークシート等をスタディ・ログとして保存し、その後の学習の中で、生徒自身が必要に応じていつでも見直したり、活用したりできるようにする。

② 生徒が主体的に学習に取り組める課題の工夫

「国語で学んだことや過去の学習で身に付けたことが、その後の国語学習や他教科の学習や社会生活の中で活用できた」と実感することは、生徒の学ぶ目的や意欲を引き出すた

めに有効であると考えられる。そこで今回は、理科と連携して、レポート作成を行うことにした。こうすることで、生徒に学ぶ目的や学ぶ必要性を意識させるとともに、国語以外でも国語の力を活用できることを実感させる。横断的に他教科と連携し、学習課題を共有することで、目的をもって主体的に学習に取り組む生徒の姿を実現したい。

(3) 研究テーマに関わる評価

- ①-1 授業後の振り返りで、学習に苦手意識をもつ生徒が「活用した力」について具体的に記述をしている。
- ①-2 授業後のアンケートで「スタディ・ログや仲間との対話を必要に応じて活用して課題に取り組んだ」と答える生徒が90%以上になる。
- ②-1 授業中、学習に苦手意識をもつ生徒が、自分の目的に向かって活動している。
- ②-2 授業後のアンケートで「目的をもって課題に取り組むことができた。」と答える生徒が90%以上になる。

3 単元と指導計画

(1) 単元名

わかりやすく伝える 教材名「レポート」（現代の国語1 三省堂）

(2) 単元の目標

- ・比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができる。 【知識及び技能（2）イ】
- ・目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。 【思考力、判断力、表現力等B（1）ア】
- ・書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えることができる。 【思考力、判断力、表現力等B（1）イ】
- ・言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 【学びに向かう力、人間性等】

(3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。（2）イ	①「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。B（1）ア ②「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。B（1）イ	①集めた材料を粘り強く整理し、学習の見通しをもってレポートを書こうとしている。

(4) 単元の指導計画と評価計画（全7時間、本時5／7時間）

次 (時数)	学習内容	学習活動	主な評価規準□と方法
1 (1)	・ レポートの定義を確認する。 ・ 「科学研究」や「身のまわりの出来事」から「問い」を立て、レポートの題材を決める。	・ 理科のレポートと教科書のレポート見本を比べ、自分のレポートの課題点を確認する。 ◎ レポートの題材を決める。	<u>態度①</u> 学習の見通しをもっている。 【ワークシート】
2 (2)	・ 調査をして、情報を集める。 ・ 集めた情報を分類・整理する。	◎ 複数の調査方法で情報を集める。 ◎ まとめにつながる情報を分類・整理する。	<u>思・判・表①</u> 集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。 【材料カード】
3 (4)	・ レポートの構成や内容を考える。 ・ 学習内容を活かして、レポートを書く。 ・ レポートを読み合い、評価する。 ・ 単元の学習を振り返る。	◎ より良い構成を考える。 ・ スタディ・ログや仲間の考えを活用し、構成を練り直す。 ◎ レポートを書く。 ・ 前時の気づきを使う。 ・ 表等も効果的に使う。 ◎ レポートを評価する。 ・ 仲間のレポートを読む。 ・ 評価基準に則り、評価する。 ◎ 単元の学習を振り返り、スタディ・ログを残す。	<u>態度①</u> 集めた材料を整理し、目的をもってレポートを書こうとしている。 【行動観察】 <u>知・技①</u> スタディ・ログや説明文で学んだことを活用している。 【レポート】 <u>思・判・表②</u> 書く内容の中心が明確になるように、レポートの構成や展開を考えている。 【レポート】

4 単元と生徒

(1) 単元について

本単元で取り扱う「レポート」は、課題を設定し、予想を立てて調査を行うものである。生徒は小学校段階において「観察・記録レポート」や「社会科見学レポート」等「記録型」や「報告型」のレポート作成に取り組んだ経験がある。さらに、中学1年生の夏休みには理科の課題として、「科学研究レポート」に取り組んだ。理科の授業でもレポートの作成を学んでいるが、構成や説得力のある表現の仕方を生徒が意識するところまでは至っていない。今後も理科だけでなく、様々な場面でレポートを作成する機会があると考えられるため、理科でレポートを作成したこの機会に、再度国語でレポート教材を取り扱うことは、今後に活かせる国語の力を定着させるためにも有効である。生徒は中学1年生の1学期に説明的文章の構成や効果的な資料の提示について学習しており、その際、スタディ・ログに残した「学び」も、レポート作成に活用できると考えた。本単元では、スタディ・ログを活用して、他教科と共通の課題に取り組ませることで、主体的に学ぶ生徒の姿の実現を目指したい。

(2) 生徒の実態

話し合うことに慣れており、与えられた課題に意欲的に取り組む生徒が多い。また、タブレット型端末の扱いにも慣れている。単元ごとの振り返りでは「学び」や「気づき」、「今

後に活かせること」等を記録することはできているが、それを自主的に見直して活用したり、活用できることを実感したりしている生徒はまだまだ少ない。生徒は、1学期に説明文の展開や構成・表現の工夫等について学習した。その際、レポートの構成にも通じる「問いを立て、予想を検証し、結論を述べる」という論の展開や、「表やグラフ等を効果的に使って、わかりやすく伝える工夫」等を学び、学習の記録（学んだことや身に付けた力）を「ログ」に残している。また、一人一人が理科の夏休み課題として「科学研究レポート」に取り組んでいる。そこで、今回の学習では、説明的文章の学習で身に付けた「読みの力」を活用して理科のレポートを作成するという課題に取り組ませることにした。他教科と連携し共通した課題に取り組むことで、国語が他教科でも活用できることを実感するとともに、目的をもって主体的に学習を進められる生徒の姿を実現したい。

5 本時の展開（令和6年9月30日実施）

(1) ねらい

身に付けてきた力を活用して、レポートの構成や内容をより良くしようとする。

(2) 展開の構想

① スタディ・ログの活用

- ・説明文「ペンギンの防寒着」、「クジラの飲み水」で学習した際のスタディ・ログ（単元の振り返りや課題）を必要に応じて見直しをさせる。

② 主体的に課題に取り組める活動の工夫

- ・授業の最初に学習の「目的」を確認する。「国語」で学んだことが、教科を横断して理科の授業にも活かされることを伝え、学習意欲を高める。また、必要に応じてスタディ・ログや仲間のアドバイスを活用できるようにすることで、全員が目的をもって課題に取り組めるよう配慮する。

(3) 展開

時間 (分)	学習活動	T：教師の働き掛け S：予想される生徒の反応	□評価 ○支援 ◇留意点
導入 7分	○本時の学習の見通しをもつ。	T：学習の目的、めあて、課題を確認する。 S：本時の見通しをもつ。	◇他教科（理科）にも通じていることや、スタディ・ログ等が役に立つことを伝える。
	めあて：読みの力を活用して、レポートの構成や内容をより良くできる。		
展開1 20分	班活動 ○レポートを読み合いアドバイスし合う。	T：次回で完成。全員でB評価以上をクリアするために、必要な視点をみんなで2つ以上アドバイスすること。アドバイスをもらう人は、知りたいことを具体的に伝えて2つ以上アドバイスをもらうこと。 S：自分のレポート内容や目指している評価を伝え、より良くするため	○「作戦シート」に記録してある課題や、評価基準、教科書やレポートの例等をもとにして、レポートより良くするために有効なアドバイスをしよう声をかける。

課題：自分のレポートをより良くするために追加するのはコレだ！

		の視点について2つ以上アドバイスをもらう。 S：教科書、評価基準等を活用して、改善点を2つ以上アドバイスする。	
展開2 15分	個人 ○レポートを手直しする。	S：教科書やスタディ・ログ、仲間のアドバイス等を活用してレポートをより良く直す。	態度① スタディ・ログやアドバイスをもとにして、レポートをより良く直そうとしている。 【行動観察】
まとめ	まとめ：自分のレポートをより良くするために追加するのはコレだ！		
4分	○まとめをする。	T：「作戦シート」に「クリアしたこと」と「自分のレポートをより良くするためにすること」を記入しよう。	態度① スタディ・ログやアドバイスを活かして、構成や内容をより良くしようとしている。
4分	○振り返りをする。	T：「学習の記録」に活用した読みの力（役に立った読みの力・参考にした読みの力・気付きを与えてくれたもの）を記入しよう。	【まとめ・振り返り】 ◇「作戦シート」をロイロノートに提出する。 ◇振り返りをロイロノートに提出する。

(4) 評価

評価規準

身に付けてきた力を活用して、レポートの構成や内容をより良くしようとしている。

【主体的に学習に取り組む態度① 行動観察、まとめ・振り返り】

評価基準

B スタディ・ログや仲間のアドバイスを参考にすることで再考し、まとめで今後のレポート作成に活かせる内容について書いている。

A スタディ・ログや仲間のアドバイスを参考にすることで再考し、まとめ・振り返りで今後のレポート作成に活かせる内容と活用した読みの力について書いている。

6 実践を振り返って

(1) 指導の実際（授業の実際）

① タブレット型端末による「スタディ・ログ」の活用・蓄積について

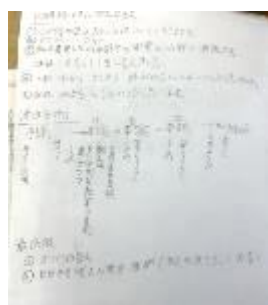


図 1

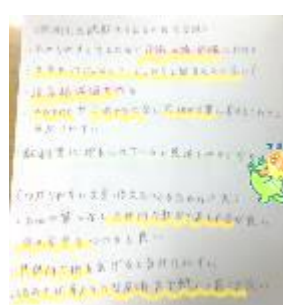


図 2



図 3



図 4

「レポート」の学習に入る前に、スタディ・ログ「私の国語学習 説明的文章編」を見直し、今まで生徒自身が身に付けてきた知識・技能を確認させた（図1）（図2）。その後、日々の学習内容や振り返りをログに残しながら学習を進めた。学習中は、生徒が必要に応じて過去のログを見直し、活用しながら学習に取り組む場面が多々見られた。単元終了時「単元の振り返り」（図3）（図4）で、新たに身に付けた知識・技能や気づきを記入させ、再びログに残した。クラスの85%の生徒が今後の学習に活かせる具体的な内容について記述をした。また、授業後のアンケートでは「スタディ・ログが次の学習の役に立っている、次の学習に繋がっている実感があるか。」という質問に100%の生徒が「はい」と回答した。

② 生徒が主体的に学習に取り組める課題の工夫について

今回は、理科と連携してレポート作成を行った。横断的に他教科と連携し、学習課題を共有したことで、両方の教科の評価を上げるべく学習意欲が増した生徒がいた。また、他教科と連携することで「説明文で身に付けた力が他教科や生活の中でも活用することができる」と実感する生徒が増えた。「国語で学んだことは他でも活用できる」ということを意識できるような課題設定を行うことは、生徒の主体性や学習意欲に繋がることが確認できた。

表 1

Q10 説明文で学習したことが、他の教科や生活の中にも通じている、役に立っていると感じますか。



前 70.8%

→

表 2

Q1 説明文で学習したことは、他の教科や生活の中でも活用することができる、役に立つと感じますか。



後 91.3%

(2) 研究テーマに関わる評価

評価①－1「授業後の振り返りで、学習に苦手意識をもつ生徒が『活用した力』について具体的に記述をしている。」について、以下の結果が得られた。

単元に入ったばかりの頃は、授業の中で取り組んだことのみの記述だったが、仲間との対話が始まった4時間目あたりから、活用した力を具体的に記述できるようになった。仲間の振り返りをいつでも見られるようにしてあるため、記述の仕方を参考にできたことも変容の一因と考えられる。



図 5 生徒 A

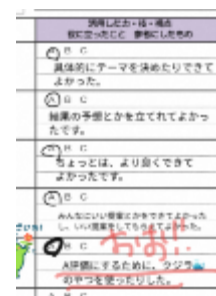


図 6 生徒 B

評価①－2「授業後のアンケートで『スタディ・ログや仲間との対話を必要に応じて活用して課題に取り組んだ』と答える生徒が90%以上になる。」については、82.6%という結果が得られた(表4)。

日頃から必要なときにはスタディ・ログを活用しているため、本単元の前後での大きな変化は見られなかったと考えられる。

評価②－1「授業中、学習に苦手意識をもつ生徒が、自分の目的に向かって活動している。」につ

表 3

Q14 今まで身に付けてきた「国語の力」を活用して、新しい課題に取り組んでいる実感がありますか？



前 79.2%

→

表 4

Q4 スタディログ（私の国語学習）や協力の力、仲間との対話を「必要に応じて」活用して、レポートの課題に取り組めましたか？ ※「必要に応じて」とは「必要な時に自分で選んで」ということ



後 82.6%

いて以下の結果が得られた。

単元の最初に、評価基準を明確にし、基準に照らして自分のレポートの課題点を書き出したことで、学習に苦手意識をもつ生徒も目的意識をもって活動できたと考えられる。また、レポートの見本や仲間からの助言も学習を進める上で有効な手立てとなっていた。



図7 生徒C



図8 生徒D

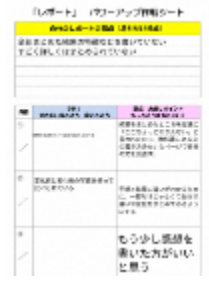


図9 生徒E

評価②-2「授業後のアンケートで『目的をもって課題に取り組むことができた。』と答える生徒が90%以上になる。」については87%という結果が得られた。

【生徒のコメント】

- ・毎時間「作戦シート」に自分の課題や次の時間にやることを書いていたから。
- ・自分たちで作った「評価基準」（図10）があり、何をすればいいのかわかったから。
- ・ミニ黒板に「全部の時間」と「やることの目安」（図11）が貼ってあったから。



今回の実践で、何より生徒の学習意欲や主体性を引き出すために有効だったのは、生徒が自分たちで設定した「評価基準」（図10）だった。BASの明確な基準を自分たちで設定し、自分たちで評価すると決めたことにより、生徒が活動の途中で評価基準に立ち戻って学習を自己調整したり、目標の評価基準に見合うレポートにするために仲間と協力し、主体的に学習に取り組んだりする姿が多く見られた。また、単元全体の流れ（図11）を常に掲示することにより、課題提出に間に合うように進捗を確認・調整しながらレポート作成を進める生徒が多くいた。

【Bの評価基準（一部）】

- ・最初の「レポートの弱点」が直っている。
- ・「レポートの形式」で書いている。
- ・写真やグラフ等がある。
- ・「引用」がある。

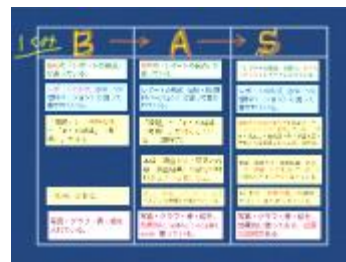


図10

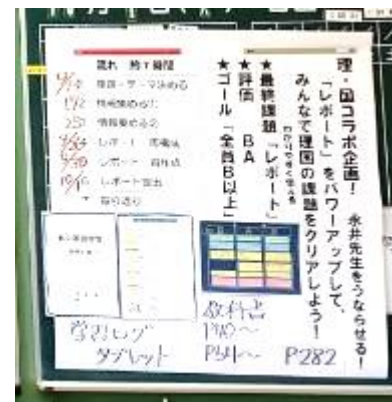


図11

(3) 今後の課題

生徒自身が身に付けた具体的な読みの力（資質・能力）をスタディ・ログに残し、繰り返し活用していくことは、主体的に学習を進める生徒の育成に効果があった。また、他教科と連携して課題を共有することは、生徒に「学びの汎用性」を実感させるうえで大変有効であった。さらに、評価基準を学習者である生徒自身が決めたことが、生徒の主体性を高めることに非常に有効であった。ただ、評価基準を生徒が決めるためには、ポイントとなる項目を明確にさせる必要がある。現状では全ての単元・教材で評価基準を生徒が決めることは難しいため、どの分野のどの単元で実施できるのかを引き続き模索していく。

今回はあらかじめ授業内でレポート作成を行う時数とゴールを生徒に示して学習を進めた。そのため、学習が遅れがちな生徒もレポートの完成に間に合うように自宅でレポート作成をする等、学習を自己調整する姿が多く見られた。生徒自身が「主体的に学習を進める」という点で、今後は単元内自由進度学習も念頭に置いて授業を行いたい。またその際、どの段階で、どこまでを教師が指導し、どこまでを生徒に委ねると効果が高まるか等を意識して、授業を構成していきたい。

〈引用・参考文献〉

文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』. 株式会社東洋館出版社 2018.